



## 全日本同和会幹部研修会に参加して

2月18日（水）星陵会館（千代田区永田町2-16-2）において、全日本同和会幹部研修会が開催された。この研修会は、全国の役員400名が参加し、代表県が県内の事例、問題等の意見発表を行う研修会である。来賓祝辞の後、基調講演として、医学博士 藤井輝明氏による「今を生きる」という講演が行われた。

藤井氏は1957年東京都国立市生まれ。2歳の頃から、右頬に赤み（海綿状血管腫）が現れ、幼少期から“いじめ”にあう。1996年国立名古屋大学大学院医学研究科博士課程終了（健康増進科学講座）。東京大学大学院客員研修員。現在、顔に病気や傷などを抱える人たちに対する差別・偏見をなくすために、忙しい合間を縫つて、全国各地を回り講演活動を展開中。

藤井氏は講演を、「いじめ、差別、偏見、蔑視、誹謗、中傷、排除は100%する側が悪い」「正しいこと、真実は、一人でも伝えていく」「見て見ぬ振りをする、傍観者、関わりを持たない人たちは、いじめ、差別等する人以上にタチが悪い、決して無関心であってならない」と結んだ。

研修に移り、山梨県連、大阪府連、鹿児島県連の各代表者が各県での現状を発表した。

山梨県連では、樋口英子氏により、次のような発表が行われた。「山梨県連としては、県民の方々に人権感覚の意識を持ってもらうために、様々な啓発活動を行ってまいりました。しかし、残念ながら、同和問題をはじめとして、差別と偏見に至ってはまだまだ根強いものが残っております。特に同和問題については、一部の人たちの事として、大多数の人々は関心を持たないところに、啓発の難しさがあります。



今日、啓発のあり方をどうすれば良いかを考える事が重要であります、最良の方法を見つけだすのは容易な事ではありません。考えられる様々な方法をまずやってみる事に徹しなければなりません。差別や偏見が悪い事だと言うことは全ての人が理解しているのですが、差別や偏見、いじめがなくなる所に問題の難しさがある訳です。

山梨県連としては、同和問題における就職・職場環境、結婚などの相談業務、また、平成19年より県内各所に於いて、命の大切さを訴えるパネル展を開始し、現在、県内十数か所において開催しています。そこで多くの方の意見を聞くなかで、やはりまだまだ身近においても差別などがあることを感じます。その他として、行政機関と協働で民生・児童委員等を対象とした市民向け講演会や、行政職員を対象とした研修を行い人権意識の高揚に努めています。また、人権教育は小さい頃から必要であることから、小中学生を対象に、いじめ防止についての人権移動教室を行っています。差別や偏見を解決するためには、各人の人権意識の高揚を促す事が最も重要であり、全ての人々が人権感覚を磨く事でしか解決する事が出来ないと思います。頭のやわらかいうちに、人権教育をほどこすことが、問題解決の決め手だと思い、今後もたゆまず啓発活動に打ち込む事を目指して活動を続けてまいります。

差別や偏見は多種多様なことから、甲府市で行っている各種人権団体との懇話会にも参加し、同和問題について説明し、また、他の代表者からの人権問題についての情報収集にも努めております。

このような活動を続けていくことで、一人ひとりの心に訴え、すべての人々が個人として尊重され、平和で豊かな社会の実現のため、積極的に人権施策の推進に取組んでいき、活動を続けていくことで、幹を太らせ、枝葉を茂らせるような事業展開を今後もおこなって行きます。」

国連NGO横浜国際人権センター・山梨プランチ

代表 横山 隆史（全日本同和会山梨県連合会会長）

〒400-0831 甲府市上町601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房1階 Tel 055-243-8563